

第4期障害福祉計画策定のための基礎調査の結果について

1 調査目的

本調査は、平成26年度に予定されている「第4期昭島市障害福祉計画」の策定にあたって、障害のある市民の生活状況やニーズ等を把握し、計画への反映及び今後の障害者施策等を実施して行くための基礎資料とするため実施したものです。

2 調査方法

- 調査対象者：身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持しており、市内で在宅生活を送っている方2,000人（無作為抽出）
- 調査方法：郵送配布、郵送回収
- 調査期間：平成25年11月13日（水）～11月27日（水）

平成25年4月1日現在手帳交付数

区 分	18歳未満	18歳以上	合 計
身体障害者手帳	115人	4,153人	4,268人
愛の手帳	187人	512人	699人
精神保健福祉手帳	13人	595人	608人
合 計	315人	5,260人	5,575人

2,000人抽出の内訳

18歳未満	18歳以上	合 計
81人	1,115人	1,196人
152人	270人	422人
13人	369人	382人
246人	1,754人	2,000人

3 調査内容（項目）

①回答者、ご本人について	5問	⑧外出について	2問
②障害の状況について	5問	⑨福祉サービスの利用について	2問
③医療や介護の状況について	6問	⑩権利擁護・社会参加・障害理解について	5問
④相談や福祉情報について	4問	⑪災害対策について	3問
⑤日中活動や仕事について	9問	⑫将来について	2問
⑥保育・教育・療育について	5問	⑬意見・要望など自由意見	1問
⑦住まいについて	3問	合 計	52問

4 回収結果

配布数 (A)	有効回収数 (B)	白票・無効票 (C)	有効回収率 (B/A)
2,000	1,136	1	56.8%

調査結果の分析

1 回答者について

(身体障害のある方の高齢化)

年齢(問3)をみると、身体障害のある方のうち、65歳以上が73.1%、75歳以上が43.5%となっており、身体障害のある方の高齢化が進んでいることがわかります。障害の発症に気づいた時期(問9)をみると、18歳以上では40~64歳が多くなっている一方で、0~5歳も多くなっており、身体障害のある方は、幼少期から障害のある方と中高年になって疾病等により障害が発症した方に二極化しており、それぞれの生活状況やニーズに配慮する必要があると考えられます。

●障害の発症に気づいた時期(問9)

		全体	生まれたとき	0 ~ 5歳	6 ~ 17歳	18 ~ 29歳	30 ~ 39歳	40 ~ 49歳	50 ~ 59歳	60 ~ 64歳	65 ~ 69歳	70 ~ 74歳	75歳以上	無回答
18歳以上	身体障害	689 100.0	30 4.4	77 11.2	36 5.2	50 7.3	63 9.1	98 14.2	132 19.2	69 10.0	53 7.7	36 5.2	17 2.5	28 4.1
	知的障害	161 100.0	22 13.7	92 57.1	34 21.1	1 0.6	1 0.6	4 2.5	4 2.5	-	1 0.6	-	-	2 1.2
	精神障害	196 100.0	-	6 3.1	39 19.9	79 40.3	38 19.4	21 10.7	10 5.1	1 0.5	1 0.5	-	-	1 0.5
18歳未満	身体障害	39 100.0	11 28.2	24 61.5	3 7.7	-	-	-	-	-	-	-	-	1 2.6
	知的障害	72 100.0	15 20.8	49 68.1	7 9.7	-	-	-	-	-	-	-	-	1 1.4

2 医療について

(身近な地域における医療機関の充実)

医療に関して困っていること(問12)をみると、「治療により症状が改善されない」と「医療機関が家の近くにない」が多い傾向にあり、特に「医療機関が家の近くにない」は18歳未満の回答割合が18歳以上に比べて多くなっています。また、地域で安心して暮らすために必要な支援(問51)に関しても、身体障害のある方では「医療機関の充実」が最も多く、誰もが身近な地域で症状に応じた適切な医療を受けられるように、保健、医療、関係機関との連携強化が求められています。

●医療に関して困っていること(問12)

(複数回答)

		全体	治療により症状が改善されない	医療機関が家の近くにない	障害の医療機関が専門でない	休日や夜間に対応が難しい	通院の確保が難しい	通院のための交通機関が整備されていない	医療機関がパリアフリー化されていない	医療や健康に関する相談に困る	治療の説明が十分でない	医療費の負担が大きい	拒否されたことによる理由が不明	その他	特になし	無回答
18歳以上	身体障害	689 100.0	139 20.2	85 12.3	51 7.4	44 6.4	50 7.3	36 5.2	18 2.6	52 7.5	28 4.1	83 12.0	20 2.9	31 4.5	300 43.5	65 9.4
	知的障害	161 100.0	13 8.1	31 19.3	19 11.8	12 7.5	12 7.5	4 2.5	3 1.9	13 8.1	20 12.4	21 13.0	8 5.0	7 4.3	7 4.1	66 9.9
	精神障害	196 100.0	51 26.0	34 17.3	12 6.1	23 11.7	6 3.1	5 2.6	1 0.5	20 10.2	19 9.7	29 14.8	4 2.0	11 5.6	11 34.2	16 8.2
18歳未満	身体障害	39 100.0	6 15.4	14 35.9	6 15.4	3 7.7	4 10.3	3 7.7	2 5.1	7 17.9	2 5.1	7 17.9	4 10.3	2 5.1	8 20.5	3 7.7
	知的障害	72 100.0	12 16.7	19 26.4	14 19.4	11 15.3	10 13.9	6 8.3	3 4.2	12 16.7	5 6.9	5 6.9	6 8.3	5 6.9	21 29.2	4 5.6

3 日常生活について

(将来への不安)

日常生活で困っていること（問17）をみると、「将来に不安を感じている」が多い傾向にあり、自由意見（問52）からは、介助者が高齢になり支援できなくなった場合や親亡き後の生活を案じる声が多く寄せられています。障害のある方が地域で自立して生活できるよう、居宅支援サービスや地域生活支援事業の充実を図るとともに、地域の福祉施設との連携と協力により、障害のある方の生活の場の確保と自立に向けた支援が求められています。あわせて、不安の解消に向け、相談支援体制や福祉に関する情報提供体制の充実が必要と考えられます。

●日常生活で困っていること（問17）

(複数回答)

		全体	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分にできない	家事などが十分にできない	介助者の負担が大きい	外出に支障がある	住まいに支障がある	就労について困っている	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に対する周囲の理解がない	困ったとき相談する相手がいない
18歳以上	身体障害	689 100.0	286 41.5	83 12.0	161 23.4	91 13.2	198 28.7	52 7.5	31 4.5	197 28.6	246 35.7	35 5.1	66 9.6	41 6.0
	知的障害	161 100.0	42 26.1	19 11.8	46 28.6	26 16.1	33 20.5	8 5.0	16 9.9	61 37.9	65 40.4	41 25.5	32 19.9	28 17.4
	精神障害	196 100.0	100 51.0	14 7.1	74 37.8	19 9.7	55 28.1	13 6.6	50 25.5	51 26.0	58 29.6	74 37.8	49 25.0	41 20.9
18歳未満	身体障害	39 100.0	17 43.6	14 35.9	9 23.1	15 38.5	9 23.1	9 23.1	7 17.9	24 61.5	27 69.2	9 23.1	12 30.8	9 23.1
	知的障害	72 100.0	15 20.8	17 23.6	22 30.6	17 23.6	20 27.8	8 11.1	15 20.8	38 52.8	40 55.6	20 27.8	23 31.9	16 22.2

		市役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理療した上で診てもらえない	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない	その他	特になし	無回答
18歳以上	身体障害	80 11.6	50 7.3	177 25.7	255 37.0	29 4.2	17 2.5	131 19.0	36 5.2
	知的障害	57 35.4	25 15.5	45 28.0	90 55.9	16 9.9	7 4.3	18 11.2	4 2.5
	精神障害	47 24.0	20 10.2	102 52.0	133 67.9	25 12.8	1 0.5	17 8.7	7 3.6
18歳未満	身体障害	10 25.6	9 23.1	17 43.6	25 64.1	2 5.1	3 7.7	2 5.1	1 2.6
	知的障害	19 26.4	17 23.6	24 33.3	47 65.3	4 5.6	3 4.2	6 8.3	3 4.2

4 就労について

(収入面の改善と個々の能力や適性にあった支援)

65歳未満の方について、日中の過ごし方（問21）をみると、身体障害のある方では「一般就労」が多く、知的障害のある方と精神障害のある方では「福祉的就労」が多くなっています。仕事をすることで困っていること（問22）としては、「収入が少ない」が多く、収入面の改善が課題と考えられます。65歳未満の方について、働いていない理由（問24）をみると、「障害の程度や症状のため」が多くなっているほか、精神障害のある方では「働く自信がないため」が多くなっています。働くために必要な支援（問25）としては、「自分にあった仕事を見つける支援」が多く、就労に関する

相談や情報提供、個々の能力や適正に応じた技能習得機会が提供される環境を整備する必要があります。

●日中の過ごし方（問21）

		全体	正規の職員・従業員として働いている	パート・アルバイトなどで働いている	自宅で働いている	福祉的就労をしている	以前働いていたが、現在は働いていない	働いたことはない	無回答
身体障害	40歳未満	31 100.0	7 22.6	2 6.5	2 6.5	4 12.9	3 9.7	11 35.5	2 6.5
	40～64歳	154 100.0	33 21.4	17 11.0	10 6.5	7 4.5	67 43.5	14 9.1	6 3.9
	65歳以上	504 100.0	8 1.6	12 2.4	26 5.2	8 1.6	280 55.6	63 12.5	107 21.2
知的障害	40歳未満	96 100.0	10 10.4	22 22.9	2 2.1	29 30.2	8 8.3	18 18.8	7 7.3
	40～64歳	55 100.0	9 16.4	5 9.1	-	13 23.6	9 16.4	12 21.8	7 12.7
	65歳以上	10 100.0	-	1 10.0	-	1 10.0	3 30.0	3 30.0	2 20.0
精神障害	40歳未満	54 100.0	-	11 20.4	2 3.7	17 31.5	13 24.1	10 18.5	1 1.9
	40～64歳	118 100.0	5 4.2	8 6.8	2 1.7	25 21.2	63 53.4	9 7.6	6 5.1
	65歳以上	24 100.0	-	-	-	1 4.2	20 83.3	-	3 12.5

5 保育・教育・療育について

（今後の進路や将来への不安が大きい）

通園・通学生活等で困っていること（問34）をみると、「今後の進路について」と「子どもの将来について」が多くなっています。小学校・中学校に在籍する児童が希望する進路（問32）としては「特別支援学校の高等部」が多く、高校に在籍する児童が希望する進路（問33）としては「企業への就職」が多くなっている一方で、「わからない」も多くなっています。それぞれの障害や希望に合った進路に進めるよう、一般就労に向けた支援や相談支援の充実に努める必要があります。

●通園・通学生活等で困っていること（問34）

（複数回答）

		全体	通園・通学の送迎	周囲の子どもとの関係	教職員の指導の仕方	通園・通学生活での本人の成長	今後の進路について	子どもの将来について	保育や教育・療育に関する情報が少ない	療育・リハビリテーションの機会が少ない	費用などの経済的な負担	その他	特に困っていることや心配はない	無回答
18歳未満	身体障害	39 100.0	13 33.3	11 28.2	10 25.6	12 30.8	25 64.1	23 59.0	9 23.1	9 23.1	12 30.8	2 5.1	2 5.1	2 5.1
	知的障害	72 100.0	18 25.0	24 33.3	15 20.8	23 31.9	50 69.4	47 65.3	21 29.2	13 18.1	15 20.8	2 2.8	6 8.3	1 1.4

6 住まいについて

(住宅改造費助成、グループホームの整備、公営住宅への優先入居)

住まいに関して困っていること(問36)をみると、身体障害のある方では「階段の昇り降り」「玄関などの段差」「風呂が使いにくい」が多く、住まいに関する必要な支援(問37)として、「家具転倒防止や耐震化など災害対策」が多くなっています。知的障害のある方では「グループホームなどの整備」が最も多く、将来の生活の場の確保に対する要望が高まっていると考えられます。また、精神障害のある方では「公営住宅への優先入居の拡大」が最も多くなっており、住まいに関する要望は障害ごとに違いがあることがわかります。

●住まいに関する必要な支援(問37)

(複数回答)

		全体	住宅改造費用の貸付・助成	家具転倒防止や耐震化など災害対策	公営住宅への優先入居の拡大	民間賃貸住宅の入居支援	グループホームなどの整備	その他	特にない	無回答
18歳以上	身体障害	689 100.0	131 19.0	152 22.1	70 10.2	21 3.0	31 4.5	16 2.3	262 38.0	128 18.6
	知的障害	161 100.0	16 9.9	20 12.4	17 10.6	13 8.1	30 18.6	2 1.2	67 41.6	24 14.9
	精神障害	196 100.0	15 7.7	27 13.8	50 25.5	25 12.8	12 6.1	6 3.1	88 44.9	20 10.2
18歳未満	身体障害	39 100.0	10 25.6	6 15.4	6 15.4	4 10.3	5 12.8	5 12.8	14 35.9	5 12.8
	知的障害	72 100.0	14 19.4	12 16.7	10 13.9	6 8.3	19 26.4	3 4.2	29 40.3	3 4.2

7 外出について

(バリアフリー化の推進と金銭的な負担の軽減)

外出に関して困っていること(問39)をみると、身体障害のある方では「歩道の段差や傾斜」「建物の段差や階段」が多く、道路や施設などのバリアフリー化を引き続き推進することが求められています。知的障害のある方では「外出するのに支援が必要である」が多く、個々のニーズに応じた移動支援事業の充実が必要です。精神障害のある方では「お金がかかる」が多く、通院等で必要となる交通費が負担となっていることが考えられます。また、18歳未満では「周囲の人の障害に対する理解不足」が困り事としてあげられており、障害のある方やそのご家族が社会で能力を十分に発揮できるよう、啓発活動を行う必要があります。

●外出に関して困っていること(問39)

(複数回答)

		全体	歩道の段差や傾斜	建物の段差や階段	バスやタクシーの利用	駅構内の移動や乗り換え	切符や飲料等の販売機の利用	トイレの利用	標識・表示がわかりにくい	疲れたときの休憩場所	自動車・自転車に危険を感じる	周囲の人の障害に対する理解不足	お金がかかる	外出するのに必要な支援	その他	特にない	無回答
18歳以上	身体障害	689 100.0	209 30.3	185 26.9	98 14.2	112 16.3	48 7.0	130 18.9	49 7.1	182 26.4	174 25.3	95 13.8	88 12.8	134 19.4	30 4.4	156 22.6	54 7.8
	知的障害	161 100.0	12 7.5	12 7.5	17 10.6	20 12.4	9 5.6	16 9.9	15 9.3	19 11.8	29 18.0	33 20.5	29 18.0	45 28.0	5 3.1	41 25.5	21 13.0
	精神障害	196 100.0	11 5.6	15 7.7	20 10.2	17 8.7	2 1.0	14 7.1	7 3.6	48 24.5	45 23.0	32 16.3	65 33.2	19 9.7	12 6.1	49 25.0	13 6.6
18歳未満	身体障害	39 100.0	11 28.2	10 25.6	8 20.5	12 30.8	4 10.3	11 28.2	5 12.8	8 20.5	11 28.2	16 41.0	6 15.4	12 30.8	3 7.7	4 10.3	3 7.7
	知的障害	72 100.0	8 11.1	9 12.5	15 20.8	21 29.2	11 15.3	15 20.8	11 15.3	11 15.3	25 34.7	33 45.8	7 9.7	33 45.8	2 2.8	11 15.3	1 1.4

8 権利擁護・社会参加・障害理解について

(成年後見制度の周知、障害によって不利益を被ることのないように)

成年後見制度の認知状況（問42）をみると、「名前も内容も知っている」は身体障害のある方と知的障害のある方では30%を超えています。精神障害のある方では20%台と若干低くなっています。利用意向（問43）をみると、身体障害のある方と精神障害のある方では30～40%が利用したいと回答しており、知的障害のある方では50%を超えています。その一方で、「名前も内容も知らない」という回答も多く、引き続き制度の周知を図るとともに、利用希望者が円滑に利用できる体制の整備が必要であると考えられます。

障害があるためにあきらめたこと（問44）としては、「スポーツ・運動・レクリエーション」「旅行や外出」「人づきあい」が多い傾向にあり、知的障害のある方では「結婚」、精神障害のある方では「就職」が最も多くなっています。障害がある方が偏見や差別等による不利益を被ることがないよう、様々な機会を通じて啓発活動を行う必要があります。

●障害があるためにあきらめたこと（問44）

(複数回答)

		全体	進学	就職	恋愛	結婚	出産・育児	人づきあい	旅行や外出	おしゃれ	趣味活動・遊び	スポーツ・運動・レクリエーション	その他	特にない	無回答
18歳以上	身体障害	689 100.0	22 3.2	65 9.4	30 4.4	43 6.2	17 2.5	86 12.5	195 28.3	45 6.5	111 16.1	206 29.9	16 2.3	211 30.6	131 19.0
	知的障害	161 100.0	30 18.6	43 26.7	45 28.0	60 37.3	26 16.1	47 29.2	29 18.0	19 11.8	25 15.5	31 19.3	6 3.7	42 26.1	23 14.3
	精神障害	196 100.0	32 16.3	88 44.9	48 24.5	52 26.5	27 13.8	75 38.3	59 30.1	26 13.3	36 18.4	42 21.4	4 2.0	39 19.9	17 8.7
18歳未満	身体障害	39 100.0	7 17.9	6 15.4	6 15.4	6 15.4	5 12.8	13 33.3	12 30.8	6 15.4	12 30.8	20 51.3	4 10.3	8 20.5	3 7.7
	知的障害	72 100.0	15 20.8	7 9.7	7 9.7	6 8.3	6 8.3	21 29.2	18 25.0	8 11.1	17 23.6	23 31.9	5 6.9	21 29.2	8 11.1

9 災害対策について

(薬や医療的ケアの確保、福祉避難所の確保、自助意識の高揚)

災害時に不安なこと（問47）をみると、身体障害のある方と精神障害のある方では「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が最も多く、知的障害のある方では「避難所で他の人と一緒に過ごすことが難しい」と「一人では避難できない」が多くなっています。災害時に必要な支援（問49）としても「薬や日常生活用具などの備蓄」「障害に対応した避難場所」が多くなっており、福祉避難所の周知と活用について検討することが必要です。また、災害に対して備えていること（問48）をみると、「特にない」が多く、精神障害のある方では40%台に達している現状を踏まえ、市として障害のある方の避難や救護等の支援体制を整えるだけでなく、障害のある方が自ら災害に対して備えられるよう意識を高めていく必要があると考えます。

●災害時に不安なこと（問47）

(複数回答)

		全体	災害発生等の情報を知らない	助けを求められない	近くに人がいない	一人では避難できない	避難所の設備が障害に対応していない	避難所のトイレを利用できない	避難所で必要な支援が受けられない	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	その他	特にない	無回答
18歳以上	身体障害	689 100.0	90 13.1	91 13.2	92 13.4	214 31.1	233 33.8	247 35.8	243 35.3	144 20.9	327 47.5	28 4.1	81 11.8	81 11.8
	知的障害	161 100.0	39 24.2	42 26.1	27 16.8	69 42.9	42 26.1	34 21.1	61 37.9	75 46.6	57 35.4	4 2.5	18 11.2	14 8.7
	精神障害	196 100.0	21 10.7	33 16.8	42 21.4	38 19.4	43 21.9	45 23.0	78 39.8	72 36.7	126 64.3	11 5.6	29 14.8	16 8.2
18歳未満	身体障害	39 100.0	10 25.6	11 28.2	4 10.3	21 53.8	20 51.3	17 43.6	23 59.0	23 59.0	25 64.1	1 2.6	1 2.6	-
	知的障害	72 100.0	19 26.4	25 34.7	10 13.9	46 63.9	37 51.4	24 33.3	43 59.7	44 61.1	29 40.3	4 5.6	3 4.2	-